

大都市・東京を中心とした若者の観光・レジャーの行動と空間

杉本興運
首都大学東京

若者の観光需要喚起が将来の観光産業の維持・発展において重要視されている現在、若者による観光・レジャーの動向を社会情勢や若者文化をふまえて深く検討すべき時にきている。本特集号では、若者の文化発信や交流の拠点が多く存在する大都市・東京を中心に展開する若者の観光・レジャーの行動や空間の特性を検討している。また、若者の目線を通してオルタナティブな都市型観光・レジャーの可能性についても言及している。

観光庁の若者旅行振興研究会によると、若者にとって旅行は目的ではなく、「何か」をするための手段になりつつあるという。そのため、若者を引き付けるコンテンツの開発や見せ方が若者観光振興のための一つの鍵であるとも述べている。大都市・東京は主に都市住民にとっての日帰り観光・レジャーの空間としての性質が強いものの、若者の好むコンテンツが多く集積し、彼らの観光・レジャーにおける重要な消費や交流の空間という特性を兼ねている。そのため、大都市・東京を中心とした若者による観光・レジャーの特徴を明らかにすることによって、若者の観光旅行の振興に資する多くのヒントを得られるのではないかと期待される。

本特集号は、2017年7月に地理空間学会で開催されたシンポジウム「大都市における若者の観光・レジャーの行動と空間」を骨子としている。そこでは杉本、磯野、池田、太田による研究発表がされた。杉本の発表分は『地理空間』10巻2号のリサーチペーパーに、「東京大都市圏における若者の観光・レジャーの時間的・空間的特性－大

規模人流データによる分析」というタイトルの学術論文として既に掲載された。今回の10巻3号では、磯野、池田、太田が主体となってシンポジウムで発表した分と、飯塚、小池が主体となって実施した研究を、学術論文として掲載している。

まず、(掲載号は異なるが)総論としての位置付けにある杉本の研究では、若者の観光・レジャーに関する研究動向、若者の旅行離れ、若者の観光需要喚起施策、若者の定義といった基本事項について、はじめに論じている。そして、多様な若者向けコンテンツの存在する東京大都市圏に焦点を当て、そこでの若者の観光・レジャーの時間的・空間傾向を大規模人流データによって分析し、職業・学生種別や性別での若者の昼夜間別の訪問先などを明らかにしている。しかし、杉本の研究では、若者がいつどこで観光・レジャーをしているのかについての大きな傾向を定量的に示してはいるが、若者の訪問先での観光行動、訪問対象となる観光資源、若者特有の観光・レジャー形態の特徴などについては扱っていない。

そこで、続く各論では、若者に特有とされる観光・レジャーをコンテンツ別に取り上げ、フィールドワークを主体とした調査によって、それらの実態を明らかにしている。選択したコンテンツは「アニメ」「フード」「音楽」「クルーズ」「教育」の5つである。1, 2番目に関しては、若者が好むコンテンツやイベントの事例として、アニメに関する観光・レジャーやクラフトビールイベントを研究対象として選択した。3, 4番目は若者のナイトライフ観光に関する研究であり、その典

型であるライブハウスやクラブといった音楽空間や、若者向け観光事業として成功しているナイトクルーズを取り上げた。5番目は、学生である若者向けの教育旅行であるが、東京都の重点施策であるインバウンド観光の一形態である訪日教育旅行を取り上げた。

若者には若者の好む特有のコンテンツが存在するが、それを媒介とした観光・レジャーも若者観光の促進に貢献している。その典型の1つと言えるのがアニメに関連した観光・レジャーである。小池ほかの研究では、若者によるアニメショップでの購買、コラボカフェの利用、聖地巡礼、展示会イベント、アニソンや声優のライブ、コスプレ大会、オフ会への参加の頻度や同行者の特徴や、彼らの多くが訪問するアニメショップや聖地の名称および分布の特性を明らかにした。

多様な食文化を楽しめる東京大都市圏では、若者の好むフードも彼らを引きつける観光・レジャーのコンテンツとなる。飯塚ほかは、若者によるフードに関する観光・レジャーについて、世界的に人気の高まっているクラフトビールを例に、日本でのクラフトビール系イベントの展開と若者の消費行動との関係を検討し、若者はクラフトビールをファッションとして消費する傾向にあり、さらにそれに関するイベントへの参加が若者特有の都市型フードツーリズムとして成立していることを明らかにした。

成人している若者は比較的夜間の観光・レジャーをする人が多いことが先の杉本の研究で明らかだが、このことは若者が都市のナイトタイム

エコノミーを支える消費者であることを示唆している。若者の夜間での観光・レジャーについて、音楽という切り口から論じたのが、池田ほかの研究である。池田ほかは、東京都区部に集積する代表的な音楽系施設であるライブハウスとクラブを取り上げ、それらの地理的分布傾向、音楽空間としての特性、ナイトライフ観光の受入施設としてのサービスや企画ツアーの動向などを明らかにした。

太田ほかは、別の切り口からの若者によるナイトライフ観光の事例として、東京湾で展開されるナイトクルーズを取り上げている。具体的には、ここ十数年で若者の乗船客数が大幅に増加した東京湾納涼船を対象に、その事業の歴史と運航システムを整理するとともに、若者を集客するための戦略（若者向けコンテンツの導入や乗船料の値下げなど）や、納涼船を訪れる若者の利用特性を明らかにした。

インバウンド観光の中心となる東京は、外国人の若者にとっても魅力的な訪問先であり、彼らの訪日旅行の需要喚起もまた重要な課題である。磯野ほかの研究では、その中でも若者を対象とした訪日教育旅行を取り上げ、その目的地としての東京の特性を検討した。受入態勢と外国人学生の観光行動の分析から、東京都には安定した訪日教育旅行の受容基盤が確保されており、欧米豪やアジアから多くの教育旅行を受け入れていること、施設集積からみて企業見学やレジャー目的の都市観光の実施において優位性を発揮していることを明らかにした。